



2023ジェンダー平等ミーティング

ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

5月24日(水)テーマ

「ジェンダーって何？」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「ジェンダーって何？」

講師：藤野敦子さん（京都産業大学教授）

- ・「ジェンダー」という概念は欧米諸国から始まった
- ・もともと、ジェンダーは「分類」という意味
- ・ジェンダーは、社会や文化の中でつくられた性のあり様である。
- ・ジェンダーは、目に見えない規範によって、上下・支配・従属の関係になる可能性がある
- ・規範に従う中で、無意識のうちに不平等を生み出しているかもしれない。それに気づいて行動することで、不平等な扱いを正し、「個性の尊重」「ジェンダー平等」につなげることができる。

- ・何となく分類されたことであっても社会に根付いてしまい、思い込み、差別などにつながってしまっていることがあるのかもしれない。
- ・男性、女性、その他の性以外にも分類できる。分類した方が良いのかもしれない。
- ・言語、分類が国によって思っていた以上に異なっている。
- ・カテゴリー分けしてしまうことで、上下差が生まれてしまう。
- ・これまでジェンダーに触れる機会がなく、新たに学ぶことが多かった。

男らしさ、女らしさに縛られた経験や話

- ・髪が短いときに男みたいだと言われた
- ・体育の授業が男女別で行われた
- ・男だから力が強いと思われている
- ・アンケートの性別欄が男女しかなかった
- ・外食をする際のレディースセット
- ・合コン、マッチングアプリ
→男性は有料、高額、女性は無料、少額。
- ・ジェンダーレストイレの安全性は？使い心地は？

男らしさ、女らしさに縛られた経験や話

- ・痴漢問題は女性専用車両で解決するのか疑問
- ・スポーツでトランスジェンダーの人が活躍するのはどうか
- ・男性のほうが雇いやすいと考えられる。出産等が採用にも影響する
- ・面接で結婚したら仕事を辞めるか聞かれて不快だった。女性だから聞かれたのだと思う
- ・男が外で働き、女性は家で家事をするというイメージ
- ・学校制服やスーツ → 選択できる機会が多くなってきた

無意識の中で拘束されていること

- ・アンケートなどに男性、女性、その他

→まだ男性、女性の2分類が一般的だと思っしまい、その他があることに驚く

- ・背の順、出席番号、身体測定、体育の授業を男女別にする

→分類された性に対する違和感。悩むことがあるかも

→大学では、身体測定、体育は男女合同。

小学校～高校まで分ける必要はあったのか

- ・学校では、男性、女性に分類される機会が多く感じる。

交流しての感想

- ・思っていたよりも緊張せず、楽しく話すことができた。
- ・スポーツ、仕事でも男女別になっていることが多く、驚いた。
- ・スポーツを性別で分けるのではなく、身長、体重で分けても良いと思う。
- ・会社、スポーツ(選手)男性、女性で稼ぎが違う。
- ・結婚して退職した先輩の話 次の就職先の面接で働くことについて夫はどのように感じているのか聞かれたことも差別かもしれないと思った。
- ・保育園の入園 夫婦共働きでも難しい。祖父母の状況も聞かれる。

交流しての感想

- ・ 偏見からくる女性管理職、官僚の少なさから、男女不平等であることが露呈しており、やはり日本は時代遅れである
- ・ 今後については、若者が選挙に行き、積極的に女性に票を入れることで女性の声が届きやすい政治ができるのではないかと考えた。
- ・ 困っていることをもっと知りたいと思った
- ・ 特別男性、女性という意識で生きていない。
潜在的に男や女という意識はあるが、意識していないので生活する上では困った事はない
- ・ 最近では男性の育休取得が増えてきている。そういう世の中になってほしい

交流しての感想

- ・今後もグループで話すことで理解を深め、広げていきたい
- ・小中高生にもこのような場で話す機会があるとよい
- ・自分にはなかった視点やテーマについて知ることができた
- ・ジェンダーについて話す機会は少ないので、話せてよかった
- ・LGBTQは少数だからカミングアウトしづらいのかもしれないが、個性が大切だと思う